

“濃厚なスープ”を味わい、伝えるために*

小野田真由美 介護施設勤務

地球の生命の起源とは。

ロシアの生化学者・オパーリンは、原始地球の有機分子が海に蓄えられて“濃厚なスープ”ができ、やがて最初の生命につながったと考えたという。ゆきさんの愛読書として紹介された「生命の起源」を調べてみて感じたのは、なるほど！。

この講義は、前例を超え、垣根を超え、国境を越えて赤坂で味わえる“濃厚な命のスープ”なのだ。

「命」は、なぜシンプルに、寿命を全うすることを許さなかったのでしょうか。人間も動物も植物も、病気や障害と共に生きなければならない理由がなぜ必要だったのか。

それは、神様から人への「ポーっと生きてんじゃねーよ！（NHKの人気番組より）」というメッセージ？どんな人も幸せになるために、考えて闘って、悲しんで笑って「超えて」いくしかないのだとしたら、真実を「伝える」ことは欠かせないと、その意味の重さに改めて気づかされています。

薬害には「死ぬ苦しみ」だけではなく、「死ぬよりつらいと思えるな苦しみが続く」ことがある。そうした現状に歯止めをかけ、変えるため、「伝える」ことがどれほどの力を発揮してきた（している）か。その歴史の“生き証人”とも言えるゆきさんのご経験を聞けるのは、とても貴重で尊い時間です。私には、ゆきさんのように世界中の何1000人もと“えにし”を結べる度量も度胸もないけれど、一つだけ共通点を見つけました。

支局長から言われたという「100を取材して9を捨て、1を書くこと」。

私の研修を担当してくれた上司は、こうでした。「100を取材して、1を書きなさい」。

熱くるしいほどに熱かったその上司の教えは、今も骨の髄の手前ぐらいまで染み込んでいます。

修士1年の後期から、修士2年へ。“濃厚なスープ”を飲み干した時、私は、どんな論文のテーマを見つけられるのでしょうか。どんな「100」と出会い、取材をして、1を書き上げられるのでしょうか。

「利己的遺伝子の企みに逆らって生きる術を獲得した人間にとって、介護とは何なのか」。

垣根を超え、国境を越えた14人の挑戦者の皆さんとの“えにし”で、新たに学べることを楽しみにしています。